

2.2 新技術振興渡辺記念会 創立35周年記念



公益財団法人 未来工学研究所
理事長

平澤 冷

貴財団が創立35周年を迎えられたことを、お慶び申し上げます。

貴財団の「創立25周年記念誌」によれば、この間の多くの期間、運営を巡るトラブルに巻き込まれご苦労されたことが記されています。貴財団が今日のように安定的にあるのは、この苦難の期間に当事者として財団を守り抜き、艱難を克服し、隆盛の礎を築かれたからであります。当時からのご担当の方々の財団に対する強固な使命感とこの間のご努力に敬意を表するとともに、貴財団にお世話になっている者として、この歴史を忘れず、感謝の想いを抱き続けたいと思っています。

貴財団は大変ユニークな存在であります。科学技術の研究を対象とする民間ファンドは多くありますが、科学技術の振興方策を支援する民間ファンドは我が国では他に例を見ません。具体的な事業として、「調査研究事業」と「調査研究の助成事業」を中心に、「国際交流の援助」や「普及啓発の推進事業」を展開しておられます。勿論、官庁をはじめとした公的機関による委託調査研究等の中にも科学技術の振興方策に関する委託プロジェクトもありますし、最近では科学技術政策研究の助成事業も実施されるようになりました。しかし、貴財団とそれらとを比較してみますと、課題選択の方針や基準、結果として実施されたプロジェクトの内容や質がかなり異なっています。官庁からの委託調査研究は、担当となる課や室の単位で発注されるものがほとんどで、課題が概して細分化されており、そのうえに調査仕様が細目にわたって規定されています。まさにターゲティング・ポリシーの準用そのものです。そのため、この分野の専門的立場からみると、調査ポイントはそこではないのではないか、もっと重要な調査課題が他にある、とてもこの枠

組みでは調査できない等々、歯ざしりすることがままあります。一方、貴財団では科学技術の振興方策に資するという大きな枠組みが示されているだけで、研究者側のアイデアや現場のニーズ等に基づく実務的テーマが多様に採択されています。研究助成事業においても、同様に両者の採択方針の違いが際立っています。このように、科学技術政策分野で研究者の創意工夫に基づく実務的調査研究の唯一の砦として、貴財団が独自の機能を担い、重要な役割を果たしておられます。

未来工学研究所は、貴財団からの手厚いご支援により再建を果たすことができました。主題を科学技術に限定することなく、我が国の「社会」に注目し「未来研究」シリーズを展開することができました。

再建期を支えた調査研究

- ・ 2011 科学技術予測調査の実現率に関する調査
- ・ 2012 日本の長期ビジョン策定の在り方に関する調査研究
- ・ 2012 企業における将来技術予測活動に関する調査研究に加え、「未来社会」を主題とする以下の調査研究を「調査研究事業」として取り組む機会を与えられました。
- ・ 2013 科学技術イノベーション政策形成のための社会経済的課題把握に関する調査研究
- ・ 2014 科学技術の政策的課題選択における社会経済的課題を踏まえた“予測”と社会への反映に向けたアプローチの探索
- ・ 2015 科学技術イノベーション政策形成のための社会経済的課題把握に関する調査研究
- ・ 2016 科学技術を契機とする我が国未来社会形成のための政策的対応に関する調査研究 – 社会的基盤形成と社会的受容に係る事例分析を手掛かりにして –
- ・ 2017 未来社会に関する検討情報についての調査研究 – 有識者による未来社会検討と将来の社会的課題の把握 –

未来研としては、「未来社会」のためのソフト・サイエンス(思考の方法論)を構想し、今後拡大が予想されるニーズ領域を探索すると同時に、その状況にふさわしい形に体制を強化する機会を得ることができました。貴財団と未来研はこれらのプロジェクトを通じて、ファンディング機関と研究機関という関係を超えて、機能を補完しあう緊密な関係に連携を深めたといえます。

貴財団の永続的な活動を期待し、今後の一層の発展を祈念しています。